

タイトル悩みまくりました。「狐の嫁入り」という単語を入れたかったのですが、
内容が内容だけにタイトルが綺麗すぎるのもアレかなと思った結果、今回のタイトルになりました👏

※=====※

トラック 1

※=====※

★千春：

ごめんくださいなのじゃ〜…

★秋穂：

どなたか、いらっしゃいませんか〜…？

★千春：

おっ…！誰ぞ、家の奥から出てくるのじゃ…！

★秋穂：

良かったあ…！いらっしゃったみたいですね…！

ですが…なんて説明したらいいですかね…

★千春：

それは…もう正直に言うしかないじゃろ…！

なにやつじゃ〜〜〜〜？！？！

★千春：

あっ、こ、こんにちわなのじゃ…！

★秋穂：

突然、申し訳ございません。

つかぬことをお伺いするのですが

先程、祠の掃除をして下さいませんでしたか？

★千春：

そうじゃ、狐が二匹並んだ寂れた小さな祠

それに油揚げもお供えしてくれたじゃろう？

とても美味しかったのじゃ

★秋穂：

私達はその祠に住まう白狐にございまして…

私は秋穂。

もふっっ！

★千春：

そして、妾は千春じゃ。

ついては、祠を掃除してくれたお礼にと…こうして参上したのじゃ。

★千春：

あいにく今すぐ渡せる物がなくての…！

それにお主に相応しい物というのが…中々思い浮かばなかった…！

じゃから、妾達をお主にお送りするのじゃ…！

欲しい〜〜！！！！

★秋穂：

そうですね…いきなり言われても困りますよね…！

申し訳ありません…！

★秋穂：

ですから、ねえさま…

いきなりの訪問はやめましょうと申しましたのに…！

★千春：

勢いで生きるお姉ちゃんとそれを諫める妹って図、良いよね・・・。

こういうのは善は急げと相場が決まっておるじゃろ…！

★千春：

と、ともかくじゃ、詳しい話は中で…どうじゃ…？

★秋穂：

よ、よろしいのですか…！？

ありがとうございます…！

★千春：

やはり妾達の見込んだお方じゃ…♥

それではお邪魔するのじゃ…！

★千春：

ずずず～～～…ふは～…

★秋穂：

申し訳ありません、いきなり押しかけましたのに…

お茶まで出して頂いて…！

★千春：

ん～…この煎餅も中々…

ほれ、秋穂もよばれよ。 【よばれる＝食べる・いただくという意味】
だそうです！

★秋穂：

ねえさまったら…

★千春：

おお…そうじゃな…！

★千春：

さてと…先程の話なのじゃが…

妾達としては、お主にどうしてもお礼がしたい。

★秋穂：

そもそも私達は、もうじき消えゆく運命にありました。

既に私達を信仰する者はおらず、祠も貴方様のご覧になった通りの有様…

★千春：

そんな折、お主が来てくれたという訳じゃ！

★千春：

祠を掃除してくれた事…

お主にとっては、一時のきまぐれだったかもしれん…

じゃが、それでも…妾達を敬い、想ってくれた事に他ならん…

そうして誰かが想ってくれる事が、妾達の存在する意義でもあるのじゃ…

★秋穂：

貴方様が意図していなかったのは、重々承知しております。

ですが、消えゆく私達を繋ぎ止めてくれた貴方様は言うなれば命の恩人です

どうか…お願いします…！

★千春：

ちなみに、秋穂は家の事が得意じゃぞ～？

煮炊きも洗濯もお手の物じゃ！

★千春：

子供じゃなか～～～！

妾か…？妾は～…そうじゃなあ…あつ、お主と遊んでやれるぞ…！

昔は、この辺りの子どもと毎日の様に遊んでおったからの…！

遊びの事なら、お任せあれじゃ…！

ど、どうかのお…？それでは、ちと弱いかなのお…

ちょっと自信なさげなのがかわいくてなんでも許せちゃう

★秋穂：

まぁ…！嬉しいです…！ありがとうございます…！

★千春：

おお…！では今日から…妾達はお主の妻で…

妾達の旦那様という事じゃな！

旦那様なんかーい！！
押しかけ女房ってやつううう！！！！

★秋穂：

不束者ですが、私達姉妹を末永くよろしくお願い致します…♥

ねっ…旦那様…♥

秋穂ちゃああああん！ストッパーじゃなかったのおおおおお？？！！

※=====※

トラック 2

※=====※

★秋穂：

失礼致します、旦那様。

秋穂にございます。

★秋穂：

おくつろぎの最中に申し訳ございません。

本日の夕餉のご意見を頂戴致したく思いまして。

何が宜しいでしょうか？

れいぞうこ…の中は拝見しましたが、

その中の物を使って、宜しいでしょうか？

はい、畏まりました

★秋穂：

いいえ、お気になさらず。

私は旦那様の妻なので、食事の支度など当然です。

むしろ、私の料理を食べて頂けるなら

何よりの幸せです♥

めちゃくちゃ嬉しそうである～

★秋穂：

え？して欲しい事があれば、遠慮なく言って欲しい？

ありがとうございます。

でしたら…

★秋穂：

それでは…旦那様の温もりを頂戴したく思います…♥

ねえさまには悪いですが…先んじて頂いても宜しいでしょうか…？♥

ありがとうございます…♥

妹、ストッパー役のはずがちゃっかり先にいただいております。笑

★秋穂：

んちゅっ…♥ぢゅるるッ…♥ちゅぱっ…♥ぢゅるるッ…♥れろれろ…♥

ちゅる…♥旦那しゃま…♥ぢゅるるッ…♥ちゅぱっ…♥ぢゅるるッ…♥

ぷはっ…♥

★秋穂：

本当は…ゆっくり愛し合いたいのですが…

ねえさまに抜け駆けした事がバレてもいけませんから…

私のお口で…というのはいかがでしょう…？♥

この手の事は初めてですが…精一杯頑張ります…♥

★秋穂：

はい…♥それでは、お召し物を失礼して…

んっ…っしょっと…♥

★秋穂：

あっ…これが旦那様の…マラ…♡

うふふ…可愛らしい…♡

それでは…まず優しく口づけを…♡

★秋穂：

ちゅっ…♡ちゅば…♡ちゅっちゅ…♡ちゅばっ…♡ちゅっ～…♡ちゅっ…♡

ん…少し大きくなってきましたね…♡

★秋穂：

それでは次に…先っぽを咥えますね…あ～…んっ…♡

ぢゅるっ…ぢゅぞぞっ…♡んちゅっ…♡ぢゅるぢゅるっ…♡ぢゅぞっ…♡

んっ…どうでしょう…旦那しゃまあ…♡ぢゅるるっ…♡ぢゅぞっ…♡

わたひ、気持ちよく出来ていましゅか…？♡ぢゅるるっ…♡れろれろ…♡

そうですか…♡それは良かったです…♡ぢゅるるっ…♡れろれろ…♡

ぢゅぞぞッ…♡ゆくゆくはこのマラで…♡私のほとを…♡んっ…♡

考えるだけで…お腹の奥が熱くなってしまいました…♡ぢゅぞぞッ…♡

そろそろ…んっ…♡激しくしましょうね…♡ぢゅるっ…♡

だいこーふん秋穂ちゃま。

ゆっくりなのも…もどかしいでしょうし…♡

★秋穂：

んむ…♡ちゅるッ♡ちゅぞぞッ♡

ぐっぽぐっぽッ♡ちゅぞぞッ♡

ぐっぽぐっぽッ♡ちゅるるッ♡

んむっ♡んっ♡ちゅッ♡ちゅるるッ♡

ちゅぞッ♡んっ…？味が変わってきました…♡

これが子種の味でしょうか…♡ぐっぽぐっぽッ♡

ちゅるるッ♡んっ…♡という事は…♡

そろそろ子種が…♡ちゅるるッ♡

この大きく膨らんだ陰囊から…

上がってきたという事でしょうか…♡

んっ…♡よろしいのですよ…♡

ちゅるるッ♡最後は私のお口の中に…♡

旦那様の子種を…お出しくださいませ…♡

遠慮はいりませんので…♡

ちゅぞぞッ♡ほら…♡出してっ…♡

ちゅるるッ♡出して下さいっ…♡ちゅぞぞッ♡

旦那様の濃ゆい…子種を…♡私のお口の中につ…♡

ちゅるるッ♡ぐっぽぐっぽッ♡

ちゅぞッ♥ぐっぽぐっぽッ♥ちゅるるッ♥

ちゅぞぞッ♥ぐっぽぐっぽッ♥

★秋穂：

んゝッ…！♥んふっ…♥んゝ ～～～っ…♥

むふ～～～ッ…♥んッ…♥

★秋穂：

んきゅッ…♥ごきゅ…♥ごきゅ…♥ごきゅ…♥

ちゅる～～～ッ…ぽんっ…♥
最後のひと吸いがやばい…しゅごい…

★秋穂：

ぷへ…♥旦那様の子種…大変美味しかったです…♥

急なお願いにも関わらず…ありがとうございました…♥旦那様…♥

もし宜しければ…また…二人っきりで…お願い致しますね…♥

※=====※

トラック 3

※=====※

★千春：

旦那様～！お邪魔するのじゃ～！

★千春：

なんじゃ？そんなに驚いた顔をして？

★千春：

なんで入ってきたのかって…

妾達、夫婦なのじゃから…当たり前じゃろう…？♥

別にそんなに恥ずかしがらなくても良いじゃろ…♥

ほら、旦那様座れ座れ…♥

★千春：

まずは～…お背中お流しするのじゃ♥

え～と…湯を出してっと…

お風呂～～～！！！！

★千春：

後は…これを使うのかの…

★千春：

では…こうして…旦那様の背中に塗り広げて～…

どうじゃ…？いい感じ…？おお、それは良かった…！

ん～…それにしても旦那様の背中は大きくて…逞しいのお～…♥

洗い甲斐があるという物じゃ…♥

千春ちゃんのおてで洗われているう
きつとやわらかくてちいちゃくて可愛いんだろうなあ・・・

んしょ…んしょ…

ん～…手だけではどうにもあれじゃな…

そうじゃ…♥いい事を思いついたのじゃ…♥



と思っていたのに・・・
えっち！！！むち！ふわ！おっぴゃい！！！えっち！！！！

★千春：

んしょっと…♥ほれ…どうじゃ…？

妾の胸を使つての…洗体はいかがかのお～…旦那様…♥

自慢じゃないが…秋穂よりも…胸が大きいんじゃないぞ…？♥

ほら旦那様…♥洗い足りない所はないかの…？♥

勿論…背中以外でもいいんじゃないぞ…？♥くふふ…♥

ああ…そうじゃ旦那様…♥

パレテルーーー

先程は秋穂と何やら楽しいそうな雰囲気じゃったなあ…♥

そんな事はない…？♥嘘を申すでない…♥

どうせ妾を置いて二人で楽しい事をおったのじゃろ～…♥

あ～…仲間外れとは妾、寂しいの～…♥

妾も旦那様と楽しい事がしたいの～…♥

いいじゃろ…？♥

くふふ…それじゃあ旦那様…こっちを向いてくれるかの…？♥

★千春：

おお～…♥やはり妾達が惚れた旦那様じゃ…♥

マラの方も一段と逞しく…男らしいのお…♥

長さも…太さも…♥それに傘の反り返りも一級品じゃな…♥

秋穂には口でももらったのじゃろ…？♥

こんなにマラがぴかぴかじゃからの…♥少し考えれば分かる事じゃ…♥

ならば、妾はこの胸を使うとしようかの…♥

これなら秋穂にも負けんからの…♥

では早速…谷間の部分に旦那様のマラを…んっ…♥挟んでっ…♥

んしょっと…♥

★千春：

旦那様の立派に逞しくそそり立つマラを…♥

んっ…♥優しく包み込んで…♥んっ…♥

こうしてっ…♥んっ…♥上下に…♥扱き上げる様に…♥んっ…♥

動かしてえ…♥んっ…♥いち…にっ…♥いち…にっ…♥んっ…♥

んっ…♥どうかの…♥妾の柔らかくて大きな胸は…♥んっ…♥

旦那様の逞しいマラが…妾のみっちりと詰まった胸の谷間を…♥

ずりずり…♥ずりずり…♥と…擦り上げてえ～…♥んっ…♥

どうじゃ…？♥旦那様は気持ちよくなっておるかの…♥

んっ…♥そうかそうか…♥それは良かった…♥んっ…♥

この柔らかくて…大きな胸は…これからは旦那様の物じゃ…♥

んっ…♥だから…使いたくなったら…いつでも呼ぶのじゃぞ…♥

胸だけではない…妾の身体全部…んっ…♥旦那様の物じゃ…♥

秋穂共々…ぜ～んぶじゃあ…♥んっ…♥

これからは…妾達が…一生懸命…真心を込めて…♥

たくさん気持ち良くしてやるからのお…♥

んっ…♥そろそろ出そうかの…？♥

★千春：

んっ…♥よいぞ…♥旦那様の濃ゆい子種…♥妾の胸の中に…♥

こってり…たっぷり…♥ぶちまけるのじゃ…♥

ほれ…旦那様…♥出せ…出せ出せ…♥だ～せ…♥

★千春：

んっ…♥お～…♥びゅ～びゅ～出ておる♥

…なんと力強い射精じゃ…♥

本当に…胸を孕ます気かの…？♥くふふ…♥

★千春：

ん…旦那様…全部出たかの…？♥

それは良かった…♥

旦那様の気持ち良さそう…可愛らしい顔が見れて…

妾も満足じゃ…♥

完全奉仕の精神でしかないよ！！
良い娘たちすぎるよ！！

※=====※

トラック 4

※=====※

★秋穂：

あっ…♡お待ちしておりましたよ…旦那様…♡

★千春：

旦那様の為に…この通り…♡

二人で布団をあっためておったのじゃ…♡

★秋穂：

さ、どうぞお入り下さい…♡

★千春：

ん…？なんじゃ…？

もう寝るだけ…？

★秋穂：

ほんとか————？？？？？

分かっておりますとも…♡

★千春：

ああ…寝るだけ…旦那様と一緒に寝るだけじゃ…♡

★秋穂：

はい…それでは…おやすみなさいませ…旦那様…♡

★千春：

んっ…♡おやすみのじゃ…旦那様…♡

★千春：

す～…す～…

ほんとに寝た……

★秋穂：

す～…す～…

★千春：

ん…どうじゃ…秋穂…

旦那様は…眠ったかの…？

わけではなかった！！！！

★秋穂：

はい…大丈夫そうです…ねえさま…♡

★千春：

はぁ…せっかく夜伽の準備もしておったのに…

すぐ眠ってしもうて…

★秋穂：

昼間から旦那様に頑張らせすぎてしまいましたね…

反省です…♡

★千春：

でも大好きなんじゃから…しょうがないじゃろお…♡

本当は、すぐにでも子作りがしたい所を…

グッと我慢したんじゃ…♡

むしろ褒めて欲しいくらいじゃ…♡

★秋穂：

まあ…そう焦らずとも、ゆくゆくはして下さいますよ…♡

★千春：

ああ…でもこんなに側にいるのに…

抱いてもらえないなんて…こんなの生殺しじゃ…♡

仕方ない…旦那様の寝顔をおかずに…自分で慰めるとしよう…♡

へ、変態ちゃんズ？！

★秋穂：

じゃあ…私も一緒に…♡

★秋穂：

あッ…♡あんッ…♡んあっ…♡あっ…♡あんっ…♡

★千春：

んっ…♥んっ…♥んっ…旦那様…♥あっ…♥好きじゃ…♥んっ…♥

あっ…♥旦那様の…匂い…♥くんくん…♥

首筋のそこ…くんくん…♥あっ…♥好き…♥

★千春：

ふ～っ…♥ふ～っ…♥んっ…♥ふ～っ…♥ふ～っ…♥

★秋穂：

すんすん…♥すんすん…♥あっ…♥本当です…♥

とってもいい匂い…♥すんすん…♥

★千春：

す～…♥はぁ～…♥す～…♥はぁ～…♥

めちゃくちゃ嗅がれている！！！！！！！！
良いね！！！！！！！！

★秋穂：

す～…♥ふ～…♥す～…♥ふ～…♥

★千春：

あっ…♥すっごく濡れてきてしもうた…♥

くんくん…♥旦那様の匂いで…完全に発情してしもうた…♥

★千春：

す～…♥はぁ～…♥す～…♥はぁ～…♥

★秋穂：

ああ…♥すんすん…♥私もです…♥すんすん…♥

旦那様の匂いで…頭の中がふわふわする…♥

★秋穂：

あッ…♥あんッ…♥んあっ…♥あっ…♥あんっ…♥

★千春：

それに旦那様の寝顔…カッコよすぎるのじゃ…♥

んゝッ…♥んゝッ…♥あゝッ…♥

両サイド囁きくんくんか喘ぎはすはすやばいでしゅ。

ごめんなさいなのじゃ…♥

旦那様の寝顔を勝手におかずにして…

ごめんなさいなのじゃ…♥あゝッ…♥

★秋穂：

ごめんなさい…♥旦那様…♥ごめんなさい…♥

姉妹揃って…旦那様をおかずにして…ごめんなさい…♥

★千春：

あゝッ…♥イツくゝッ…！♥

★秋穂：

んゝ ツ…♥イゝ きますッ…！♥

★千春：

んゝ ～～～ッ…！♥

★秋穂：

んゝ ～～～ッ…！♥

★千春：

は～あ…♥は～あ…♥は～あ…♥

★秋穂：

ふ～っ…♥ふ～っ…♥ふ～っ…♥

★千春：

秋穂…！ど、どうしようなのじゃ…♥

すっごいお潮出ちゃったのじゃ…♥

びっしやびしやwww

★秋穂：

わ、私もです…♥

お布団がぐっしょり濡れてしまってます…♥

★千春：

ええ…！？旦那様…お、起きたりしないじゃろうな…？♥

★秋穂：

大丈夫ですよ…♥ぐっすりお眠りです…♥

★千春：

じゃあもう少し…あと1回だけ…♥

★秋穂：

これ、絶対あと一回で終わらないのでは？？？

そうですね…あと1回…♥

★秋穂：

んゝ ツ…♥あゝ ツ…♥あんゝ ツ…♥んゝ ツ…♥んゝ ツ…♥あゝ ツ…♥

★千春：

んゝ ツ…♥あゝ ツ…♥うゝ ツ…♥

もどかしいのじゃ…♥奥のゝ ツ…♥一番奥の痒い所に…♥

妾の細い指では…届かんゝ ツ…♥

旦那様の…んゝ ツ…♥長くて太い指なら…♥

絶対引っ搔ける筈じゃゝ ツ…♥んゝ ツ…♥

でもそれよりも…♥旦那様のマラが欲しいっ…♥

あのカッコ良いマラで…奥いっぱい引っ搔いて欲しいのじゃ…♥

★秋穂：

こんなお優しいお顔なのに…♥

あんな凶悪な物をお持ちで…ますます大好きになってしまいますッ…♥

★千春：

ううッ…♥

旦那様は妾の事をどんな風に…抱いてくれるのかの…♥

んッ…♥

やはり優しく…♥好き…好きって…♥

愛を囁きながら…抱いてくれるのかのお…♥

★秋穂：

それとも…雄の本能剥きだしの…

乱暴な交尾かもしれませんね…♥

メスの大事な…子宮を殴りつける様な…

ケダモノ交尾をしてくださるのかも…♥

★千春：

うッ…ダメじゃ…♥

優しい旦那様も…乱暴な旦那様も…

どっちもかっこよすぎるのじゃ…♡

★秋穂：

ああ…いつか旦那様に…

ぐちゃぐちゃにされるのを…思うと…♡

んゝッ…♡あゝッ…♡

★千春：

眠った旦那様の横で…♡

勝手におっぱじめてイク…メス狐で…♡

ごめんなさいなのじゃ…♡んゝッ…♡

★秋穂：

私も…♡大好きな旦那様に…

乱暴に抱かれるのを想像してイク…

淫乱メス狐で…♡

申し訳ございませんゝッ…♡あゝッ…♡

★千春：

うゝ〜〜ッ…イっくゝッ〜〜ッ…！♡

★秋穂：

おゝ ～～～ッ…♥おゝ …ッ…♥イきゝ …ッ…ますッ…！♥

★千春：

あゝ ～～～ッ…！♥

★秋穂：

あゝ ～～～ッ…！♥

★千春：

はっ…♥はあ～…♥はあ～…♥はあ～…♥

★秋穂：

ひっ…♥ふ～ッ…♥ふ～ッ…♥ふ～ッ…♥

★千春：

うう…♥気持ち良かったのじゃ…♥

★秋穂：

これは癖になってしまいそうですね…♥ねえさま…♥

※=====※

トラック 5

※=====※

★千春：

あっ…まずいまずい…惚けておる場合ではないぞ秋穂…

★秋穂：

そうですね…早く片付けませんと…旦那様を起こしてしまいます…

★千春：

そうじゃな…

あっ…だ、旦那様…起きてしもうたのか…？

★秋穂：

え…？ なんだか生暖かい…？ びしゃびしゃでしょうねえ

こ、これは…ち、違うんです…その…これは…

★千春：

うう…秋穂…無駄じゃ…これは誤魔化しきれん…

★千春：

旦那様…す、すまぬのじゃ…

旦那様の傍におると…どうしようもなく…

胸が苦しくなってしまうての…

★秋穂：

旦那様のお眠りを妨げるつもりは決してなかったんです…

★千春：

ちょっと…その…二人して夢中になりすぎて…

粗相をしてしまうたがな…あはは…はっ…

★千春：

うう…旦那様…こんなはしたないメス狐で…

ごめんなさいなのじゃ… かわいいぞ!!!

★秋穂：

お許してください…旦那様…

★千春：

んっ…♥な、なんじゃいきなり…抱き寄せて…♥

あっ…なぜすでにこの様に大きくしておるのじゃ…♥

★秋穂：

もしや…最初から起きてらしたのですか…？♥

旦那様も変態じゃ～～～！

★千春：

なんじゃ…そうだったのか…じゃったら、話が早いの…♡

妾達の想い…しかと伝わったじゃろ…？♡

★秋穂：

お願いします…旦那様…♡

もう…旦那様に愛して頂かないと…

私達の火照り…収まりそうにありません…♡

そりゃあ我慢できない！！

★千春：

の…？良いじゃろ…？♡

旦那様の好きな様にしてよいからあ…♡

★千春：

あっ…♡あんっ…♡んっ…♡

やる気を出してくれて…んっ…♡

あっ…♡んあ…♡嬉しいのじゃ…♡

★秋穂：

うう～…ねえさまが先ですか…？ずるいです～…♡

★千春：

秋穂は妾の目を盗んで…

確かにww

先に旦那様を味わったんじゃから、良いじゃろ…♡

★秋穂：

む〜〜〜っ…♥

旦那様…ねえさまが終わったら…私の番ですからね…♥

★千春：

ほれ…早速…んっ…♥

★千春：

妾のほとに…♥旦那様のマラをずっぽし…挿れてくれ…♥

★千春：

んッ…♥おほッ…♥旦那様のゝッマラが…♥

妾のほとを掻き分けてッ…♥おッ…♥お〜〜〜ッ…♥

よかったね〜あんなに奥に欲しがってたもんねえ〜

★千春：

おッ♥おッ♥んおッ♥ほッ♥ほッ♥

んッ♥んッ♥おほッ♥んッ♥んおッ♥

あッ♥奥ッ♥妾の気持ちいいとこにゝッ♥

旦那様のマラがっ♥当たっておるのじゃっ♥

おッ♥んおッ♥ほッ♥ほッ♥気持ちっ♥

身体がッ♥喜んでおるッ♥おッ♥おほッ♥お〜ッ♥

★千春：

おッ♥おッ♥んおッ♥おほッ♥おんッ♥おんッ♥おほッ♥ほッ♥

★秋穂：

まあ…♥ねえさまのこんな声…聞いた事ありません…♥

旦那様に愛してもらって…とっても嬉しいんですね…♥

ああ～…いいなあ…♥

私も早く…♥旦那様に愛して欲しいですう…♥

★千春：

おッ…♥んおッ…♥だ、旦那しゃま…♥

口吸いを…して欲しいのじゃあ…♥

んっ…♥ちゅるッ…♥ちゅぞぞッ…♥

ちゅるるッ…♥ちゅッ…♥ちゅぱッ…♥

んちゅッ…♥旦那しゃま…♥ちゅるるッ…♥

愛しておる…♥ちゅっ…♥おほッ…♥

★千春：

おッ♥おッ♥んおッ♥おほッ♥んッ♥んッ♥おほッ♥ほッ♥おッ♥

んおッ♥おんッ♥おんッ♥おッ♥おッ♥おほッ♥お～ッ♥

★秋穂：

ねえ…旦那様…♥私…見てるだけなんて寂しいです…♥

私にも…口吸いを…お願い致します…♥

★秋穂：

ここ！ここの移動のところ～～～！
良い感じになっていて嬉しい！

んっ…♥ちゅるるッ…♥ちゅぞぞッ…♥

旦那しゃま…♥ちゅぞぞッ…♥ちゅッ…♥ちゅぱッ…♥

ちゅるるッ…♥れろれろ…♥ちゅぱッ…♥

ちゅッちゅッ…♥ちゅるるッ…♥ちゅぱッ…♥

★千春：

あっ♥んおッ♥おッ♥ダ、ダメッ♥おッ♥

ダメなのじゃあ～♥んほッ♥んッ♥

んおッ♥んおッ♥おんッ♥おッ♥おッ♥んおッ♥

今はッ♥妾の番なのにッ♥おッ♥んお～ッ♥

かわいい！

旦那様の事、取っちゃ嫌なのじゃあ～♥

★秋穂：

ちゅるるッ…♥ちゅぞぞッ…♥ふはっ…♥

申し訳ございません…ねえさま…♡寂しくてつい…♡

ここの言い方きやわいい〜〜〜〜！！！！

もうお返ししますからね…♡

★千春：

旦那しゃまっ♡だいちゆきっ♡だいちゆきなのがじゃっ♡

じゃから♡妾の事…お母さんにして欲しいのじゃ♡

ずっと旦那様の側にッ居たいのじゃッ♡

★千春：

あっ♡あんっ♡おっ♡おっ♡あんっ♡おっ♡おんっ♡おっ♡

★秋穂：

甘えん坊なねえさま…可愛い…♡

ほら、旦那様…♡ねえさまの中に…♡出してあげて下さい…♡

お腹の奥に…♡旦那様の子種を…たっぷり…♡

★千春：

旦那しゃまッ♡出してッ♡

お腹の奥で♡旦那しゃまの子種を♡

妾の卵が待っておるのじゃッ♡

絶対赤ん坊を作るとッ♡おっ♡

首を長くして待っておるのじゃッ♡

★千春：

あっ♡あんっ♡おっ♡おっ♡あんっ♡おっ♡おんっ♡おおっ♡おんっ♡

★秋穂：

ほら…♡ねえさまもこう仰っていますから…♡

旦那様…♡さあ…♡遠慮なく…♡

★千春：

おゝ ～～～ッ！♡おゝ ～～～ッ♡

おゝ ッん…♡おゝ ～～～ッ…♡おほ…ッ…♡

でておりゅゝ ッ…♡旦那しゃまのゝ ッ…♡あっちゅい子種が…♡

妾の中にッ…♡びゆるびゆる…ひりだされてりゅゝ ッ…♡

おゝ ッ…♡これじえったい…妾の卵に…♡

旦那しゃまの子種…くっちゅいたあ～…♡

旦那しゃまとの…赤ん坊…♡じえったい孕んだあ～…♡

★千春：

んおゝ ッ…！♡

★千春：

ほお…♡ほっ…♡ほへ…♡ふ～っ…♡ふ～っ…♡

★秋穂：

あらあら…ねえさま伸びちゃいましたね…♡

でも…とっても幸せそうなお顔…♡

★秋穂：

それでは…今度は私の番ですよ…♡

★秋穂：

さあ…旦那様…お願いします…♡

私の事も…たっくさん可愛がってくださいませ…♡

★秋穂：

ふ～っ！♡ふ～っ！♡待ちに待った…♡旦那様のマラ…♡

★秋穂：

さっきまでの囁きと今の喘ぎのギャップやば！！！！

んゝッ…♡んおゝッ！

♡おゝッ♡おゝッ♡おんゝッ♡おんゝッ♡おへッ♡んおゝ　～～～ッ♡

んおゝッ♡おゝへッ♡おんゝッ♡おんゝッ♡おゝ　～ッ♡

は、激しゝッ♡激しすぎましゅゝッ♡

私のお腹の奥ッ♡子宮にゝッ♡先程からッ♡

んおゝッ♡旦那様のマラがッ♡

ごちんッ♥ごちんッ♥当たってッますッ♥んおッ♥おッ♥

ちゅよッ♥ちゅよすぎましゅッ♥マラちゅよいッ♥ ～～～ッ♥

おッ♥んおッ♥おッ♥んおッ♥

なんでこんな激しくッ♥

★秋穂：

えッ♥さっきのッ！？♥

あッ♥んおッ♥あッ♥ちがッ♥違いますッ♥

先程のはッ♥ほんの戯言でしゅッ♥おッ♥

本気でッ♥思っていないッ♥旦那しゃまがッ♥んおッ♥

雄の本能剥きだしの♥

ケダモノ交尾をするだなんてッ♥全然思ってませんッ♥

そんな風に思われてたなんてッ♥傷ついた？♥

であればッ♥謝罪致しますッ♥んおッ♥

でしゅからッ♥お情けを♥お情けを～ッ♥

★秋穂：

おッ♥おんッ♥おんッ♥おッ♥おッ♥ほッ♥んおッ♥

マラッ♥ちゅよッ♥ちゅよい～ッ♥んおッ♥おッ♥おッ♥おッ♥ん♥

んお` ッ♥おん` ッ♥おん` ッ♥お〜ッ♥おほッ♥んお` ッ♥お` 〜ッ♥

おほッ♥おん` ッ♥おん` ッ♥おッ♥おん` ッ♥

おッ♥おほッ♥おん` ッ♥お` ッん♥

★千春：

目を覚ましてみれば…なんと情けない声を出しておるのじゃ…♥

のお…旦那様あ…♥ここは妾に免じて…な…？♥

可愛い妹じゃから…許してやってくれんかのお…♥

秋穂…旦那様は許す気はない様じゃ…♥

これも身からでは錆…♥甘んじて罰を受けると良いのじゃ…♥

がんばれ秋穂ちやま♡♡♡♡

★秋穂：

しょんにゃ` ッ♥んお` ッ♥お` ッ♥

んお` ッ♥お` ッ♥んお` ッ♥お` 〜〜〜ッ♥

あ` ッ♥マラ膨らんでりゅ` ッ♥

んお` ッ♥お` ッ♥んお` ッ♥お` ッ♥

私に` ッ♥トドメをッ♥んお` ッ♥

トドメを刺すんですねッ♥んお` ッ♥

あ` ッ♥生意気メス狐ッ♥

旦那しゃまの` ッ♥きつつい折檻ッ♥して下さいませッ♥

★千春：

んおゝ ～～～ッ！♥おおゝ ～～～ッ！♥

あゝ ～ッ…♥でてりゅゝ ッ♥んおゝ ッ♥

あちゅいゝ ッ♥旦那しゃまのゝ ッ♥子種ッ♥

おおゝ ッん♥子宮にッ♥んおゝ ッ♥

へばりついてッ♥とれにゃくなつてりゅゝ ッ♥んおゝ ッ♥

子種ッ♥べちよってッ♥んおゝ ッ♥おゝ ッ♥ダメッ♥

これダメッ♥子宮やけどッ♥やけどすりゅゝ ッ♥

んおゝ ッ♥おひッ♥んおゝ ッ♥おゝ ～～～ッ♥

★秋穂：

へ～っ…♥へ～っ…♥ふひっ…♥へッ…♥

ふへッ…♥ひ～っ…♥ふひ～っ…♥

★千春：

ああ…秋穂も伸びてしもうたの…♥

まあ…あれほど狂わされたら致し方ないのお…♥

旦那様…これからも末永く…妾達の事を…よろしく頼むのじゃ…♥